



新庁舎建設にあたり、新庁舎建設検討委員会の検討状況等をお知らせします。

新庁舎建設Q&A ～ 市民の皆さんの疑問にお答えします ～

庁舎も文化会館も建替えではなく、改修ではだめなんですか？

大規模改修による延命措置も検討しましたが、建物躯体のコンクリートの寿命まで変えることはできず、およそ20年後には建替えの検討をしなければならなくなります。多額の費用を要するため、大規模改修費の借金返済と、建替えのための積み立てを同時に進める必要もあり、その後に建替えの借金返済が続くため、今回の建替えに比べ、単年の負担も多く、また長期的な負担にもなることがわかりました。

二つの施設を再整備すると建設費が大きくなりますが、いずれどこかのタイミングで必要となってくる費用であると考え、国の財政支援がある今、市民の負担を少なくし、耐震性など災害に強い庁舎とすることや、バリアフリー・省エネ等への対応ができること、複合化により二つの施設に要してきた維持費も圧縮できることなど、**財政的にも、多くの課題解決にも、今回の建替えが有利**であると考えています。

分散化している行政機能を集約するのはなぜですか？どこを集約化するのでですか？

現在、市民の窓口は、市役所のほか、保健センターや、図書館などに分散しています。これは、介護や福祉分野の行政需要の拡大や、市役所庁舎の老朽化・耐震性の不足から、2階フロアの揺れ解消のため、部署を移動させ軽量化を図ったことにより、もともとは市役所内に配置されていた部署を分散化したものです。

分散化により、現在は市民の皆さんに手続き等で複数の施設を回っていただくなどご不便をお掛けしています。例えば、住所の変更手続きでは、お子さんがいる方は、庁舎と保健センター、図書館の3カ所で手続きが必要になったり、各種申請では、住民票や所得証明書等の添付が必要な場合も多く、保健センターや図書館で申請書を提出して、市役所で必要な証明書類をとるなど、各施設を行ったり来たりしていただく場合があります。このような状況を解決し、**市民の利便性を向上させるため、新庁舎には保健センター2階の福祉課や高齢者福祉課、図書館3階の教育委員会やこども未来課、文化会館の市民協働課、社会教育課の集約化を考えています。**

検討委員会や地域懇談会では、建替えるより市内の空き事務所を借りてはどうか、逆にもっと分散化した方がいいのではないかと意見もありましたが、官民が連携して効果が期待できる場合を除いて、どの部署をどこに分散化するのか、市民の駐車場は確保できるのか、個人のプライバシー保護や個人情報保護のセキュリティは確保できるのか、また施設管理や改修費等に新たな費用負担が発生するなど、課題が多く現実的ではないと考えます。

行政の仕事は、地域のこと、医療や福祉のこと、教育のこと、農林業や商業のこと、道路や環境のことなど市民生活に関わる業務を多岐にわたって行っています。また、それぞれの分野が単独ではなく、関連性を持ちながら行政サービスを提供しています。行政が持つ多岐にわたる膨大な情報を集約し、**市民や地域、企業など多様な人々と情報を共有し、市民と行政が連携して市民が主役のまちづくりを進めていく必要があります。**

その事務を行う庁舎は、今後も「まちづくりの拠点」として、市民の利便性を向上させ、市民や地域をつなぎ、賑わいのあるまちへ発展させることが求められており、そのために分散化した行政機能を集約する必要があると考えています。